

ふ か ま ち の ま ど

米づくり農随想

高崎出旭

六月十八日・十九の二日間、NHKは夜のゴールデンタイムに「どうする日本のコメ……」と題するスペシャル番組を組んだ。この番組の中で「買い叩いて倍値で売り一億稼いだ」というヤミ米業者の取材が紹介された。消費者のコメ不安に乗じて、半ば公然と活動するヤミ米業者、ヤミ米急増と、米価高騰の構図に迫るための取材だ。

過日、JA深町支所のある会合の後の雑談でのこと。六年産米の出荷予約数量が減少したことについて、あまだ、こうだと話し合ったとき、この「NHKスペシャル」が話題に上がった。「予約米の減少」とオーパーラップしたのだ。減少の背景は、働き手の高齢化、後継者難、作付けの縮小、縁故米の需要増、考え方の（経営理念）等々様々だろう。蓋し、大切なことは、農業者としての考え方であろう。

われわれは、これまで、減反にも協力し、不作時には全量集荷にも力を入れた。食糧の安定供給と適正価格の維持を視野に入れるからであり、生産者としての社会的責任でもあるからだ。

盛況裏に終わりました

町内会連合会 高崎 修

深小学校を会場に行なわれたボラティア祭りが、町民のみなさんの御協力で、無事終えることができました。（中ノ町の民生委員の方も応援に駆けつけてくれました）

前日の天気予報では、傘のマークでしたが、当日は雨の心配もなく素晴らしい一日にすることができました。協力していただきましたみなさん、参加していただいた方々に深く感謝いたします。（約二百七十人参加）

このお祭りは、日頃横系のないグループが、年に一度一堂に会して楽しい集いをしよう、加えて地域の方に日頃のボランティア活動の一端を知っていただくという趣旨で生じたものです。

昔では「消費者利益」という大義名分のもと、「規制緩和」が声高に叫ばれている。それに乗ってかどうか、減反拒否（不履行）や流通規制に反旗を翻す農業者もある。しかし、その果てに何がくるかは、よくよく考えねばならぬこと。

世界を股に金儲けをやるのが資本主義経済である。そのためには、国境も、夫々の国の規制も邪魔なのだ。これを国際機関の名において取っ払わせようというのが、ガット体制である。農民作家山下惣一氏は指摘する。「規制緩和」「市場原理の導入」も「消費者利益」という殺し文句もその一環である。しかし、矢はずでに放たれた。国際競争の荒波をかぶることになった今、ふるさと農業を守るために、農業者自身が、何をどう考え、どう行動するかが問

深町の昔ばなし

成末 豊

五月末のこと、古い教え子のH君が突然やってきて、「ふかまちのまど」に載せるから何か原稿を書いてくれ」という。サテ！何を書いたらよいかナ。八十九才のこの身に急に言われたのでは程よい思案の浮かぶ筈はない。ママよ幼いころ祖父や曾祖父から寝物語りに聞かされた深町の昔ばなしでも書いてみようかナ、

（その一） 彭祖の滝

「彭祖（こうそ）」とは、現代中華人民共和国の昔の有名な仙人の名前だと現在、三原市には、グループとして二十八・登録人員二千人が報仕活動に参加しておられます。当深町からも石井早子・西永サチコ・坂本俊夫妻・金重八重子・福島正明一家・小林啓子・沖西サカエのみなさんの名前がありました。この中の福島愛さんは、昨年「第八回三原青少年育成の集い」で市内七人の善行青少年の一人として表彰されました。

今回深町で、全市の行事が催されたことは、今後の当町にとってたいへん意義のあったこととおもいます。これを機に更なる発展を願いたいとおもいます。

各種団体七月行事予定

- ★ 小学校
 - ▼ 水泳教室ママ
 - ▼ 廃品回収マ
 - ▼ 交通教室マ
 - ▼ 地区懇談会マ
 - ▼ 水難救助講習会
 - ▼ 終業式
 - ▼ 2/20
 - ★ 消防団
 - ▼ 分団対抗ソフト大会マ
 - ★ 子供会
 - ▼ 防犯ソフト大会マ
 - ▼ 三妻地域ソフト大会マ
 - ▼ 深町子供キヤンプ
 - ▼ 鷺島マ
 - ★ 女性会
 - ▼ 親睦会上組マ
 - ▼ 中組マ
 - ▼ 下組マ
 - ▼ 深町クリン作
 - ▼ 戦マ
 - ▼ 鏡太鼓練習マ
 - ▼ 20
- われている。少なくとも農協の原点をふまえ、組合員綱領を空念仏にしないよう努めることが大切なのではなからうか。
- ▲ 昔この滝に打たれ乍ら修業に励んだ人があったらしく、何頃からかこの滝を彭祖の滝と呼ばれるようになった。
- 現在の滝ツボは全く埋もれて見る影もないが、往時は深いツボで青々とした清水で、中々の風情をたたえていたものであった。
- （その二） おさなご味
- 昔むかし、この地方が大飢饉にみまわれ餓死者も出んばかりの時のこと、飢えに苦しんだ農民の犠牲の第一にあげられたのが幼児であった。即ち捨子である。その場所は「おさなご味」。坂の頂上から東へ百米位下った箇所であったとか。そこには赤子石と言われた五十程位の小さな石があったが何持の頃からか、その石はなくなっていた。真に残念なことである。

如水館高校移転関連情報

- ▼ 7/24 建築検査予定。
- ▼ 7/30 中之町校舎・桜山校舎より深町校舎へ施設荷物搬入作業開始。
- ▼ 8/12 搬入作業完了
- ▼ 8/21 移転作業・始業準備完了
- ▼ 8/21 第二学期始業式
- ▼ 10/4 落成記念式